

2 0 0 6 年 3 月 2 0 日

株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
2-5 F・Kビル  
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
URL : <https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
広報部 03-3664-5697

## 生物由来有用成分・素材市場調査を実施

- コエンザイムQ10バルク市場は2010年に448億円規模へ(対05年比 396%) -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、優れた機能性を持つ素材として健康食品だけでなく、化粧品、医薬品、繊維など幅広い分野で応用展開が進められている生物由来の有用成分・素材についての調査を行った。その結果を報告書「2006年版 生物由来有用成分・素材市場徹底調査」にまとめた。各素材は研究が進み、新しい有効性が多数報告され、素材活用の可能性が広がっている。

### < 調査結果の概要 >

#### 1. 生物由来有用成分・素材全体市場(50品目)

| 分野別      | 2005年   | 2010年予測 | 対05年比 |
|----------|---------|---------|-------|
| 動物由来・その他 | 602億円   | 1,026億円 | 170%  |
| 植物由来・その他 | 409億円   | 579億円   | 142%  |
| キノコ類     | 89億円    | 87億円    | 98%   |
| 合計       | 1,100億円 | 1,692億円 | 154%  |

動物由来・その他分野では、食薬区分の見直しで食品利用が可能となったコエンザイムQ10、L-カルニチンの成長が著しい。コエンザイムQ10はその後化粧品利用が可能となった事も作用している。業界の宣伝活動も積極的であり、医薬品成分としての利用で培った安全性の高さと豊富な研究データを背景に今後も安定成長が見込まれる。また、高齢者の増加から関節痛を訴える人が増加しており、痛みの緩和に対応するコンドロイチン、グルコサミン、コラーゲン、アメリカでブームとなったMSMも国内での需要を伸ばしている。動物由来素材には、既に成熟期に入っている素材が多く、機能性研究の進展による新しい用途の開発、加工性向上による一般食品への需要の開拓が更なる成長の鍵と言えよう。

植物由来・その他分野では、強力な抗酸化作用でアンチエイジング素材として注目されるアスタキサンチン、ブドウ種子エキスなど新しい素材が多く登場しており、市場は活性化している。認知度向上をいかに図るかが今後の課題である。また、チョコレートなどの一般食品分野で需要を伸ばすギャバやアイケア素材の定番であるブルーベリーなどは本格的な成長段階に入っており、更なる成長が期待されている。

キノコ類は、抗がん作用を持つハナヒラタケや、脳を活性化させる機能を持つヤマブシタケといった今後が期待される素材が登場している。しかし、キノコ類の代表的な存在であったアガリクスのバイブル本騒動、発ガン促進作用関連物質の発見による商品回収など消費者の不安がキノコ類全体に広がりつつあることから、安全性の徹底、トレーサビリティ、エビデンスの蓄積による信頼回復が求められる。

#### 2. 応用製品市場の動向

消費者の自然志向、安心・安全志向、健康志向の高まりを背景に生物由来有用成分・素材を利用した製品の注目度は高い。加工技術の向上もあり、応用製品分野は着実に拡大している。

ここ数年大きな成長を遂げているのは、高脂血症、高血圧、糖尿病などに対応した生活習慣病予防訴求製品、美白、アンチエイジングなどに対応した美容訴求製品、眼精疲労、疲労回復、ストレス解消、痴呆予防などに対応したQOL向上訴求製品が挙げられる。サプリメントを中心とした健康食品から、ドリンクタイプ、菓子などの一般食品にまで幅広い形態の応用製品が投入されている。

BSE、鶏インフルエンザなどの影響による一部の動物素材から魚由来や植物由来へのスイッチや、ブームとなっているカテゴリーでの粗悪品の流通による信頼性の低下などの問題も顕在化している。応用製品メーカーでは、安全な製造体制で科学的に効果の裏づけのある商品の開発に注力する企業が増加している。有望市場である反面、競争も激化していることから、応用製品メーカーには、優れた機能を有する素材を素材メーカーとともに探索し、効果を立証する研究体制を整え、消費者にわかりやすく伝える仕組みを構築することが求められている。

### 3. 注目成分・素材

コエンザイムQ10 2005年 113億円 2010年予測 448億円(396%)

日本では、鬱血性心不全の医薬品に用いられる一方で、米国では90年代から健康食品として人気を集めている。2004年は、アンチエイジング・ダイエット効果などを中心にメディアで頻繁に取り上げられ、原料供給が間に合わないほどに市場は拡大した。最近では、4社のみであった原料メーカーに加えて中国産の低価格なコエンザイムQ10が輸入されている。そのため原料の品質低下や一部の悪質な応用製品などによる影響が懸念されるが、原料不足に対応した国内メーカーが相次いで増産体制をとっており、品質に不安の残る輸入品の需要は僅かとなっている。

今後は、体内吸収率の向上とブームによって獲得した消費者をリピーターとしていかに確保していくかが課題である。ブームは落ち着き始めたものの、飲料や化粧品での応用製品は増えており、今後も高成長が続くと見込まれる。

グルコサミン 2005年 18億円 2010年予測 35億円(対05年比 194%)

グルコサミンは、体内で組織同士を結合する成分があり、軟骨を構成するプロテオグリカン(ムコ多糖とタンパク質の複合体)の主成分として変形性関節症の治療、痛みの緩和に有効な素材として認知度が高まった。健康食品としての利用のみならず、飲料や乳製品など一般食品での利用も浸透している。2004年には「グルコサミン研究会」が発足し、普及に向けて研究発表会など業界全体の取り組みが活発化している。最近ではスポーツ用途での製品開発が進み、ヒアルロン酸の主要構成成分でもあることから保湿など美肌効果を期待した化粧品用途でも引き合いが増えており、市場拡大が予測される。

ナットウキナーゼ 2005年 14億円 2010年予測 30億円(対05年比 214%)

ナットウキナーゼの主な作用としては、血栓溶解作用や血液凝固抑制作用、血液粘度低下作用などが明らかになっている。2001年に納豆特有の二オイを除去した素材が開発され、TVの健康番組などで血栓溶解作用を有する素材として取り上げられたことにより認知度も高まり市場が形成された。日本ナットウキナーゼ協会が設立され、ナットウ菌培養エキス食品の規格基準が公示されるなど活発な普及活動により、サプリメント用途を中心に応用が進んでいる。

ギャバ 2005年 13億円 2010年予測 20億円(対05年比 154%)

アミノ酸の一種であるギャバは、脳内で抑制系の神経伝達物質として作用する。従来は脳代謝改善の医薬品原料として使用されていたが、2001年の食薬区分の改正により食品に使用することも可能となった。ギャバの期待される作用として、血圧上昇抑制作用や、リラックス効果などが挙げられる。2004年にヤクルト本社からギャバを配合した初めての特定保健用食品が発売され、ギャバの認知度は高まった。2005年には江崎グリコからギャバを高含有したチョコレートが発売されるなど一般食品での応用が活発化してきている。

ハナピラタケ 2005年 5億円 2010年予測 21億円(対05年比 420%)

ハナピラタケは、生食にも適し、悪性腫瘍に有効とされる - (13) グルカンが他のキノコに比べて豊富に含まれていることでメディアからも注目を集め、キノコメーカーを中心に続々と生産への取り組みがなされている。現状では、霊芝など他のキノコ素材に比べても高価格で販売チャネルも通信販売と偏っていることから消費者への浸透率は低い。しかし、キノコメーカーをはじめ参入企業も相次ぎ、潜在需要の掘り起しが期待される。エビデンスの蓄積や積極的な販売促進など認知度の向上が市場の成長を促進すると見込まれる。

< 調査対象 >

| 対象       | 品目  |
|----------|---|
| 動物由来・その他 | コエンザイムQ10、-リボ酸、L-カルニチン、核酸、DHA、キトサン、グルコサミン、コンドロイチン、MSM、スクワラン、ハーブシールオイル、コラーゲン、ヒアルロン酸、プラセンタ、ローヤルゼリー、プロポリス、ラクトフェリン  |
| キノコ類     | アガリクス・ブラゼイ・ムリル、メシマコブ、ハナヒラタケ、霊芝、ヤマブシタケ、冬虫夏草  |
| 植物由来・その他 | 酵母由来 - グルカン、ギャバ、アスタキサンチン、フコイダン、セラミド、大豆イソフラボン、ナットウキナーゼ、ホスファチジルセリン、トコトリエノール、植物性ステロール、ルテイン、リコピン、オリーブ抽出物、明日葉、イチョウ葉、桑葉、ニンニク抽出物、ウコン、マカ、プエラリア・ミリフィカ、ブルーベリー、ザクロ抽出物、ブドウ種子エキス、松樹皮抽出物、緑茶抽出物(カテキン)、テアニン、バラ花卉抽出物 |

< 調査方法 >

弊社専門調査員による対象企業への面接・電話取材

< 調査期間 >

2006年1月～2006年3月

以上

資料タイトル：「2006年版 生物由来有用成分・素材市場徹底調査」

体 裁：A4判 273頁

価 格：100,000円(税込み 105,000円)

CD-ROM付き価格 110,000円(税込み 115,500円)

調査・編集：富士経済 大阪マーケティング本部 第三事業部 第二課

TEL:06-6228-2020(代) FAX:06-6228-2030

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>

URL:<https://www.fuji-keizai.co.jp/>